

イカナゴしんこ漁況予報（令和 5 年）

令和 5 年 2 月 20 日

大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター

◎水温（図 1）

水温の高低は、イカナゴ親魚の産卵時期（水温低下が産卵の引き金となる）や、ふ化した仔魚の成長（水温が高い方が成長が速い）、生き残り率（低水温の方が良い）などに影響を与える。今期は 1 月中旬以降、平年並みから高めで推移している。気象庁は 2 月中旬以降の気温を平年並みから高めと予測しており、2 月の水温は平年並みから高めで推移すると考えられる。

◎季節風（図 2）

季節風（特に西風成分）は、播磨灘から大阪湾に向かう海流を強め、イカナゴ仔魚の大阪湾への流入量を増大させる。また、仔魚の散らばりを促進することによって、生き残りにプラスに働く。今冬の西風は、1 月中旬に平年を下回った。

◎産卵量および産卵期

兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センターは、大阪湾で漁獲されるイカナゴの主な産卵場である播磨灘鹿ノ瀬海域で産卵親魚の調査を行なっている。その結果によると、今期の鹿ノ瀬海域での産卵量指数は、平年（昭和 61 年～令和 2 年の平均値）と比べると約 0.12 倍であり、産卵量指数のレベルは近年と同様に極めて低い。親魚の成熟状況等から、今期の産卵盛期は 12 月 23 日から 1 月 5 日頃であり、昨シーズン（12 月 24 日～1 月 4 日）と同時期であったと推定されている。

◎仔魚の出現状況（図 3, 4）

大阪湾内に設けた 12 の調査点において、プランクトンネット（ボンゴネット、斜め曳き）によるイカナゴ仔魚採集調査を 3 回実施した。

第 1 回調査は 1 月 5、6 日に実施した。仔魚の採集数は 1 点あたり 0.03 尾、平均全長は 3.4 mm であった。明石海峡周辺の 1 調査点でのみ採集された。

第 2 回調査は 1 月 17、18 日に実施した。仔魚の採集数は 1 点あたり 5.3 尾、平均全長は 5.7 mm であった。明石海峡周辺から湾中央部を中心に広い範囲で採集された。

第 3 回調査は 1 月 31 日、2 月 3 日に実施した。仔魚の採集数は 1 点あたり 0.6 尾、平均全長は 12.2 mm であった。第 2 回調査同様に広い範囲で採集されたが、採集数はわずかであった。

産卵盛期は昨年同時期と推定されているが、第 1 回調査ではほとんど採集されず、第 2、3 回調査での採集尾数も昨年を下回る結果となった。また、第 2、3 回調査の平均全長は昨年よりも大きかった。これは、1 月中旬に西風が平年よりも弱く、大阪湾への流入が少なかったことや産卵期後半に発生した個体が昨年よりも少なかったことが推察される。

◎イカナゴしんこの漁況見通し

今期の鹿ノ瀬における産卵量は、近年と同様に極めて少ないと推定されている。環境条件をみると、水温は1月上旬に平年よりも低めであったが、以降はやや高めで推移し、西風は1月中旬にかけて平年を下回った。つまり、イカナゴ仔魚の生残に適した環境ではなく、大阪湾への流入が少なかったことが推察される。また、仔魚の発生状況も例年より悪かった可能性がある。産卵盛期は昨年同時期と推定されているが、産卵期後半に発生した個体が少なかったことから第2、3回調査における仔魚の平均全長は昨年同時期よりも大きかった。

これらのことから総合的に判断すると、今年の大阪湾のイカナゴ漁開始時におけるしんこの資源量は昨年を下回ると予測され、近年と同様に極めて少ない状況が続いていると考えられる。また、2月下旬～3月上旬時点でのしんこの大きさは、昨年並みからやや大きいと予測される。

近年、イカナゴの不漁が続いており、今年も予断を許さない状況が続いている。イカナゴの資源回復のためには親魚となる資源をとり残すことが重要であり、解禁に際してはこの点を考慮して操業を行う必要がある。

図1 大阪湾口部の水温変化

水産技術センター地先(水深約3m)、午前9時の水温
平年値は、平成4年～令和4年の平均値

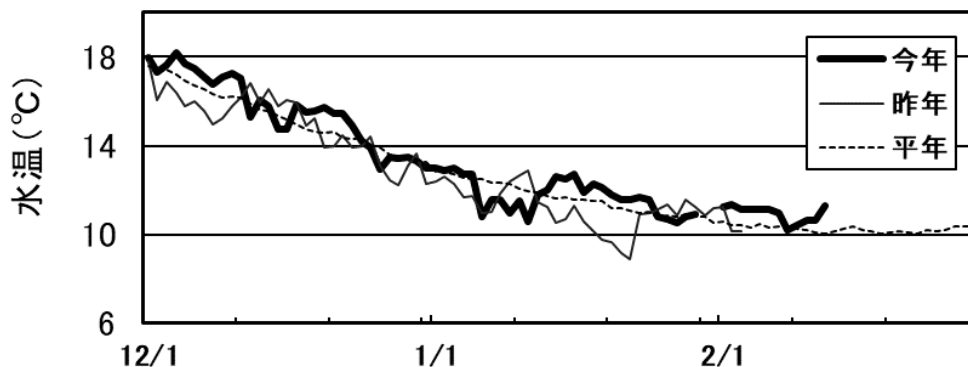


図2 西風成分の平年偏差

水産技術センター定置観測、旬平均値
平年値は、昭和56年～令和4年の平均値

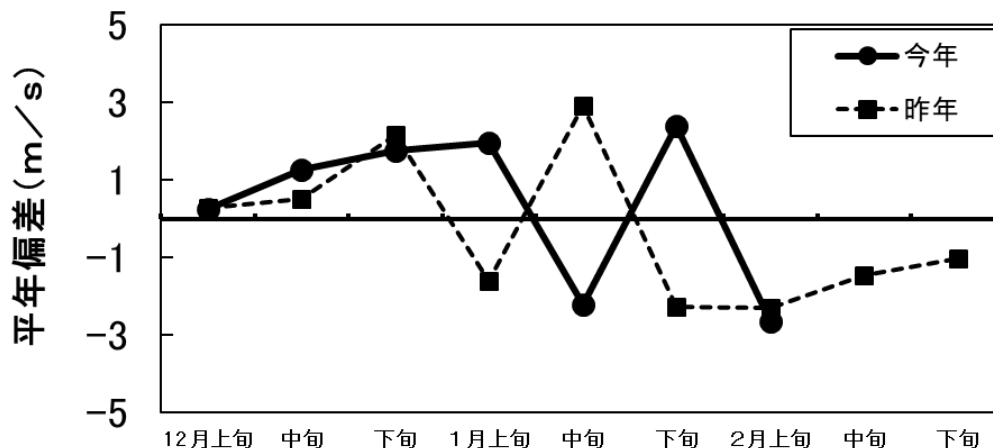
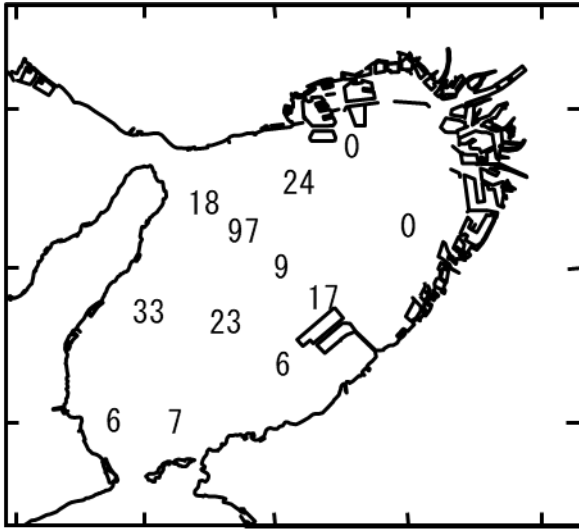
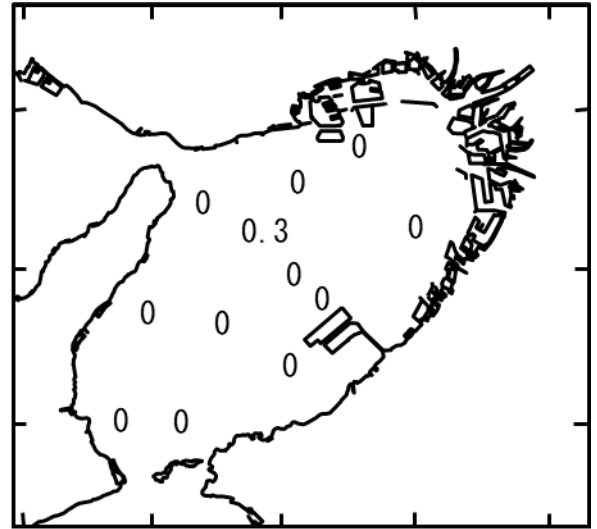


図3 イカナゴ仔魚の採集数

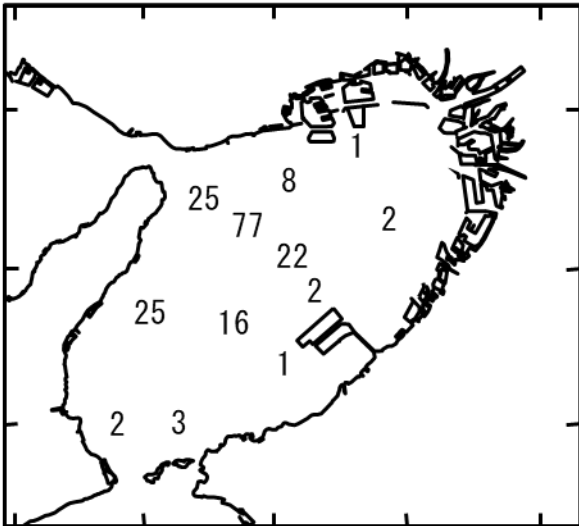
ボンゴネット斜め曳きによる、面積1平方mの水柱あたりの尾数



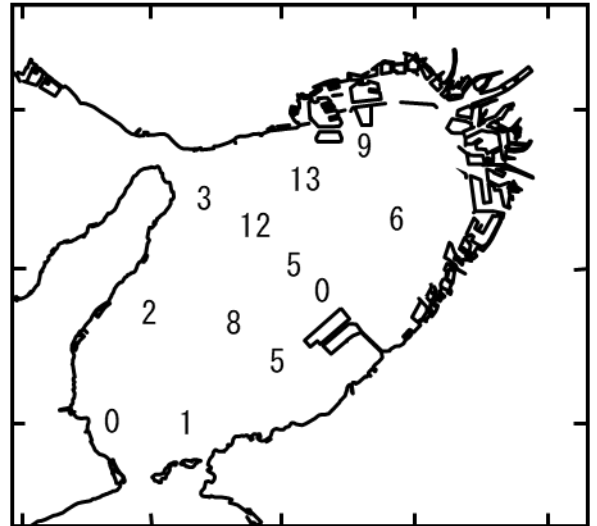
昨年1月6, 8日 1点平均 20.1尾



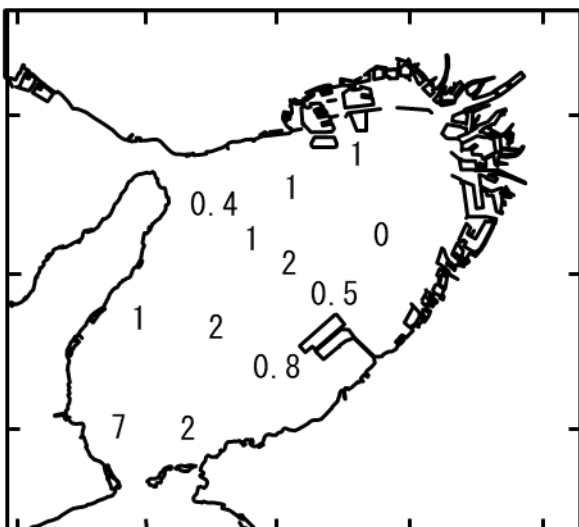
今年1月5, 6日 1点平均 0.03尾



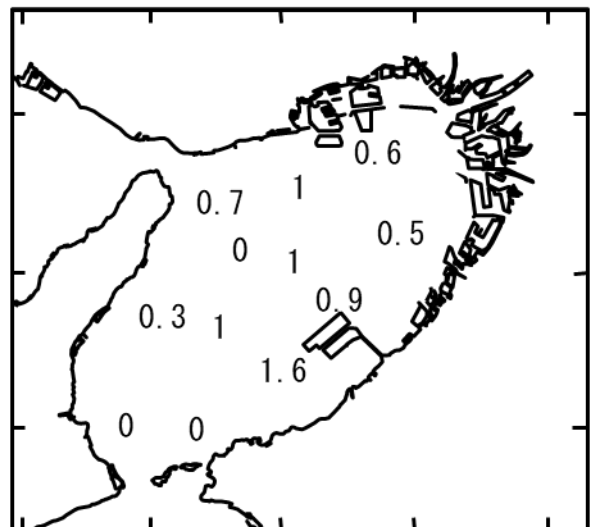
昨年1月15日 1点平均 15.2尾



今年1月17, 18日 1点平均 5.3尾



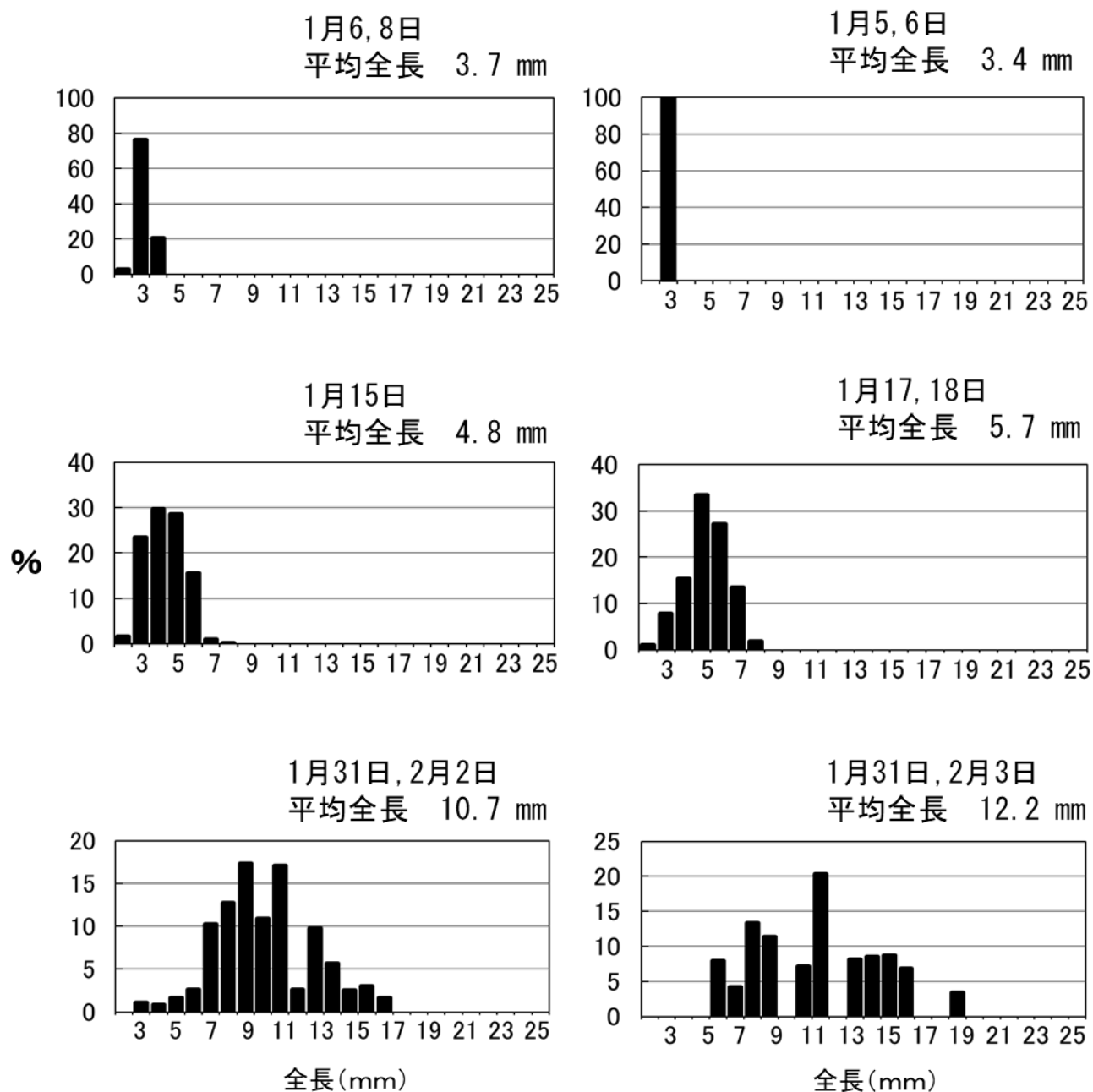
昨年1月31, 2月2日 1点平均 1.6尾



今年1月31, 2月3日 1点平均 0.6尾

図 4 昨年と今年のイカナゴ仔魚全長組成の比較

※グラフの縦軸は頻度（%）を示す



昨年（令和4年）

今年（令和5年）